





特集

ラグビーについて!



昨年、日本でラグビーワールドカップ2019が開催された。皆さんもテレビや新聞などで日本チームの活躍を耳にして、ラグビーに興味を持ったことだろう。しかし、ラグビーのルールをよく知らない人もいるのではないだろうか。この機会に歴史やルールを知ることで今後のラグビー観戦がより楽しくなるだろう。

ラグビーの歴史

ラグビーは1823年にイングランドの高校でフットボールの試合中、選手がボールを持ったままゴールへ走ったことが始まりである。初めの頃ラグビーは学校ごとに独自のルールで行われていたが、1863年10月26日にロンドンで開かれた会議でルールが統一された。このルールの統一化により今日のラグビーが誕生したのである。

ちなみに、日本ではリーダーであるリーチマイケル率いる日本代表は、「ブレイブ・ブロッサム」の愛称で知られている。日本は昨年のラグビーワールドカップで、初のベスト8という快挙を成し遂げた。これにより日本でラグビーブームが巻き起こった。

ニュージーランドではラグビーが国技とされている。そのニュージーランドにある「オールブラックス」というチームが世界最強のラグビーチームと言われている。

ラグビーのルール

ラグビーは1チーム15人で行う。一人一人ポジションが決まっており、8人のパワーが強く大柄な選手で構成されるフォワードと7人の足が速くキック力のある選手で構成されるバックスに分かれて試合する。タックルやパスを巧みに使ってボールを奪い合うが、ボールを前に投げるのは反則で自分より後ろにいる選手にパスしなければならない。試合時間は前後半40分ずつでその間に10分以内のハーフタイムがある。同一得点の場合は延長戦を行わず、抽選やトライの数などで勝敗を決める。

試合が終わることをノーサイドといい、身体を張った激しい戦いを終えた互いのチームの健闘を称え合う。

得点方法

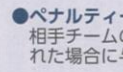
ラグビーの得点方法はトライとゴールキックの2つがある。



●トライ 敵地のインゴールにボールを置く点が入る。



●ペナルティゴール 相手チームが反則した際に得られるゴールキック。



●ペナルティトライ 相手チームの反則が無ければ、点が得られた場合に与えられるトライ。



●ドロップゴール 試合中にドロップキック(ボールを落とし、跳ね返ったボールを蹴ること)で点を入れること。



●コンバージョンゴール トライを決めた後、トライを決めたチームに与えられるゴールキック。

基本プレーと禁止プレー

基本プレー



●タックル ボールを持っている選手に相手の選手が体当たりして倒すこと。



●モール ボールを持った選手を中心に、両チームの3人以上が立ったまま組み合うこと。



●ラインアウト タッチラインの外にボールが出た時、両チームの選手の間でボールを投げ入れ奪い合うリスタート方法。

ラグビーにはしてはいけないタックルがある  
・ハイタックル…肩より上へのタックル  
・アーリータックル  
…相手の選手がボールを持つ前のタックル  
・レイトタックル  
…相手の選手がボールを手放した後のタックル  
・スティファームタックル  
…相手の首に手をかけて倒そうとするタックル



●スクラム ノックオンやスローフォワード等の反則があった時に行われるプレーのリスタート方法。



●ラック ボールを両チーム合わせて3人以上が立ったまま組み合わせて奪い合うこと。

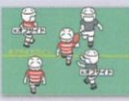
禁止プレー



●ノックオン ボールを前に落とすこと。



●スローフォワード ボールを前に投げること。



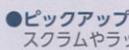
●オフサイド ボールのある位置より前からプレーに参加すること。



●オーバーザトップ 相手側に倒れ込みボールが出るのを妨げること。



●ノットリリースザボール タックルを受けて倒された選手がボールを離さないこと。



●ピックアップ スクラムやラックの時にボールを拾い上げてしまうこと。



来年度も全国大会出場を目指す一高ラグビー部

ラグビーはケガと隣り合わせなスポーツなので激しいという印象が強いが、紳士的な一面も持ち合わせている。一般的にスポーツ観戦は、観客席がチームごとに分かれているがワールドカップ等の世界大会ではラグビー場の観客席で両チームのサポーターが並んで観戦している。そして、相手チームの良いプレーにも拍手を送りファン同士交流を深めている。本校ラグビー部も全国強豪チーム。ぜひ応援してください。(黒木)

編集後記  
今学期も無事に発行できて大変嬉しいです。今年度は一学期に発行しなかったり、部室がなかったりとイレギュラーな一年となりました。そのためのなか、部長である私が未熟だからか、非常に多くトラブルが起きました。しかし、そんな状況下でも部員同士で手を取り合うことでなんとか乗り越えることができました。副部長をはじめ、部員には感謝しています。他にも、顧問の金野先生、諸先生方、インタビューに協力してくれた生徒たち、様々な人の支えがあって新聞部は今年も活動できました。ありがとうございました。(榎本)

論説 経済格差と感染症  
世界各地で起こっている経済格差。それを発端とした問題の一つとして「不法移民」というものがある。厳しい経済状況に苦しむ発展途上の人々が雇用を求め、先進国へ違法に入境するのだ。一方、日本では少子高齢化に伴って現役世代の減少が続いている。2018年12月、安倍総理は外国人介護職6万人を受け入れるべく出入国管理法改正案を提出した。働き手を求めて日本と雇用を求め、発展途上国の人々。一見利害の一致した関係だが、国内ではこの改正案が大きな波紋を呼んでいる。まず、体力のある若移民を介護職に据えようとする起用方法が、介護は体力だけでは成り立たない。現場の協調性や入居者の不調を見抜く観察力、そして何より入居者とのコミュニケーションがしっかりととれるようでない限りはならない。そんな繊細な仕事を日本に求めた外国人は言葉の通じない外国人である。日本側から入国するのだ。また、日本側の受け入れ体制にも不安が残る。今までは日本は外国人労働者への低賃金重労働が問題とされてきた。かつての日本は世界第2位の経済大国として君臨しており、途上国の人々にとって日本で働くことは憧れであった。しかしベトナムやネパールといった雇用を少ない国の優秀な人材を少賃金で留学生や留学生と称して誘い込み、「現代の奴隷」として工場の下っ端や清掃員のような日本人の嫌がる仕事をさせているのが現在の外国人労働者である。母国での仕事がない彼らは現在、諸先生方、インタビューに協力してくれた生徒たち、様々な人の支えがあって新聞部は今年も活動できました。ありがとうございました。(榎本)